

肥効調節型肥料で低コストないちごの高設栽培ができる

【1 成果概要】

促成いちご高設栽培では肥効調節型肥料の元肥全量施肥で、液肥混入機が不要です。

肥料費も従来の専用肥料を用いるより、低コストになります。

肥効調節型肥料はエコロングトータル 313-180 日タイプを用います。

上記肥料を用いる場合、さちのかでは株あたり窒素成分 4g、とちおとめでは同 3g の施用で、従来とほぼ同等の収量となります。

【2 効果】

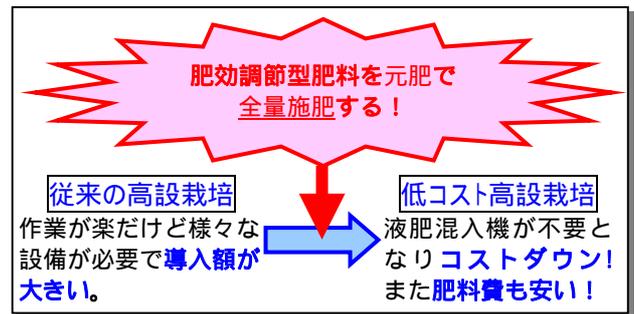
- 1 従来の高設栽培より、点滴かん水施肥装置の導入コストが削減できます。
- 2 さちのかで 14%、とちおとめで 31% 程度、肥料費が安くなります。
- 3 元肥全量施肥なので、かん水管理のみで、これまでと同等の収量が得られます。
- 4 点滴かん水施肥装置や肥料費のコスト低下が図られ、生産農家の収益性が向上します。



写真1 いちご高設栽培

【3 留意事項】

- 1 高設栽培方式は、冬期間の肥効が安定する発泡スチロール栽培槽方式とします。
- 2 肥効を安定化させるために、低温期は培地 15、気温 8 を目標に加温し、11月中下旬から電照を行います。
- 3 肥料費のコスト低減効果は、かん水量や施肥量により変動します。
- 4 肥料は定植前に培地の表土と混和します。



【4 適応対象】

- 1 地域
 県央、県南、沿岸部地域(冬期間が比較的温暖で、いちご促成、促成前進栽培に適する地域)
- 2 対象者
 (1) 高設栽培をこれから導入予定のいちご生産者
 (2) 現在、高設栽培を導入している方も肥料費を安くできます。

【5 導入コスト】

- 1 本県で最も普及率の高いシステムと比較し約 20% (約 80 万円/10a) の経費が削減できます。
- 2 従来の専用肥料より、14% または 31% 削減できます。

